

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	地域の子ども・青少年の防災力向上のための事業			
実施主体	団体等	てんでんこプロジェクト（金沢区災害ボランティアネットワーク）		
	行政	横浜市市民局（金沢区役所）		
事業の目的	自然災害で地域の子どもの犠牲者を一人もださないため、子どもを中心とした防災教育を行うことで、子どもの防災力向上と、支える大人の意識向上を図ること			
事業の内容	地域の子ども・青少年の防災力向上に向けた ①防災スクールの実施 ②出張防災教室の実施			
役割及び責任 分担等	事業項目	てんでんこプロジェクトの役割	金沢区の役割	市民局の役割
	防災スクール及び出張防災教室の実施	1 事業実施計画の策定 2 事業実施 3 広報及び周知 4 記録及び報告書の作成	1 事業に関連する相談対応や情報提供 2 区内の関係団体との連携調整	1 事業実施計画の策定 2 団体と関係区局等との連絡調整 3 事業周知協力 4 情報提供
	事業振り返り	事業終了後に実施	事業終了後に実施	事業終了後に実施
実施期間	①提案のブラッシュアップ 平成30年4月1日～平成31年3月31日 ②事業実施 平成31（令和元）年4月1日～令和2年3月31日			

記入日	令和 2 年 5 月 18 日
記入者	・団体等名： てんでんこプロジェクト （金沢区災害ボランティアネットワーク） ・記入責任者 氏名： 服部 誠 連絡先： 080-5095-5763
	・部署名： 横浜市市民局市民協働推進課 ・記入責任者 氏名： 山本雅子 連絡先：

各欄にご記入ください。このページは自己評価として A～D を振ってください

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		てんでんこプロジェクト	横浜市
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	B

②事業実施段階

		てんでんこプロジェクト	横浜市
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	C

③ふりかえり段階

		てんでんこプロジェクト	横浜市
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できましたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができましたか。	A	A
3	期待された事業成果を得られることができましたか。	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

提案のブラッシュアップ（平成 30 年度）

（協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。）

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

（てんでんこプロジェクト）

・運営委員会を組織し、報告・連絡・相談がスムーズにできたことで、事業実施におけるすべてにおいて共有ができました。また、公立小中学校や、関係機関への調整もしていただいたことで、地域と連携した防災教育推進の基盤を作ることができました。

（横浜市）

・提案当初の段階から取り組み内容が明確だったことから、翌年度の事業実施に向け、学校等との連携など詳細部分の検討ができました。

【今後改善が必要と思われること】

（てんでんこプロジェクト）

・特にありません。

（横浜市）

・今回、幼稚園との所管が神奈川県であり窓口が市（区）役所に無く、幼稚園全体の連携を進めることができなかつたことから、県など他の組織との連携も作っていく必要があります。

事業実施（令和元年度）

（協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。）

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

（てんでんこプロジェクト）

・運営委員会の継続とあわせ、各事業においても協働したことで、意識共有が進みました。プログラムの推進について、平成 30 年度の公立小中学校との連携体制の継続とあわせ、地域保育園等との調整をしていただいたことで、更なる地域内の連携体制を作ることができました。

（横浜市）

・参加する子供たちが積極的に防災の大切さについて自身の言葉で話している姿を通じて、この事業の取り組みが子供たちの防災意識の向上に役立つことが共有できました。

【今後改善が必要と思われること】

（てんでんこプロジェクト）

・事業の継続のための体制の再整備、コロナウイルス対応のオンラインでの防災教育機会の構築、防災のネットワークの維持のための関係機関の定期的な情報共有が課題となり、令和 2 年度に整備を進めていきます。

（横浜市）

・事業実施と並行し、次年度以降の組織づくりや予算確保の仕組みなど、活用できるメニュー（市及び国や民間の制度など）を提案できるよう、制度や他事例などをリサーチ、蓄積しておく必要があります。

事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

(てんでんこプロジェクト)

・協働で取り組んだことにより、地域に協力小中学校の整備、協力保育園の整備、区内関係機関のネットワークができ、防災教育を地域で進める基盤ができたことが一番の成果です。あわせて、学齢期別の防災教育プログラムの検討からテスト実施と改善実践ができたことで、正式なプログラムとして構築できたことが成果として挙げられます。

(横浜市)

・本事業の目的である小中学生の防災意識の向上のためには、区内小中学校との繋がりづくりが必要です。事業そのものは単独でも可能な取り組みですが、事業目的をより効果的に達成するため、また区内小中学校とつながっていくためには、協働という事業形態を取ることが効果的だと改めて確認できました。

・協働として取り組んだ結果、地域防災拠点の避難訓練との連携など、明確な成果につながっています。

自由記入欄